

首都圏大曲会会報 第33号

ふるさと大曲

題字 瀧谷一男

令和4年12月発行 発行所：〒162-0054 東京都新宿区河田町6-6 教育情報プロジェクト気付 首都圏大曲会事務局
電話 03(3341)6339 FAX 03(6273)0081 eメール: info@e-prosjp.com <http://www.supportlife.com>

四ツ屋まつり名物、花火灯籠の上にあがった
スターマイン



まるびちゃん



喜多院 (小江戸・川越市の古刹)



都わすれの中庭に作られた雪だるまとかまくら

東京・北区の飛鳥山に残る渋沢栄一晩年に
過ごした家



純白の季節

風情がある ふるさと大仙市
首都圏大曲会 第33号



紅葉に彩られた都わすれ(夏瀬温泉)の前景。静寂な佇まいで客を迎える

「新米のアキタコマチ」をお召し上がりください。

秋田県特別栽培農産物認証

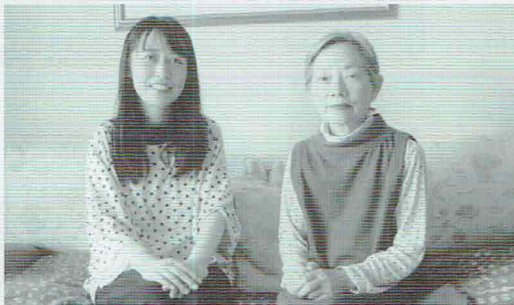
アキタコマチの田植えをする生産者・佐藤久男さん



うちしろきん
内城菌パワーで
こだわりの
有機米
『アキタコマチ』
安全・安心
食感が自慢です。

「アキタコマチの新米は本当に美味しい。今年の収穫が待ち遠しい」と、今井通子様と石川直美様の仲良し親子です。

(神奈川県横浜市港北区)



「佐藤久男さん
生産のアキタコ
マチは、春夏秋
冬、いつ食べて
も美味しい」と、
肥後ミツ様。

(千葉県八街市)



「こだわり米のアキタコマチ」 注文Fax番号: **0187-62-5614**

ご注文の方は、どうぞFaxでお申込みください。

お申込みの個所を○でお囲みください。

特別栽培こだわり米	5 kg袋	10 kg袋	20 kg袋
①減農薬 化学肥料不使用 (内城菌有機肥料のみ散布土壌)	3,000 円 (個)	5,000 円 (個)	9,800 円 (個)
送料ご負担分	1 袋 200 円	1 袋 400 円	1 袋 400 円
②減農薬 化学肥料40%使用 (内城菌有機肥料+化学肥料散布土壌)	2,300 円 (個)	3,800 円 (個)	7,500 円 (個)
送料ご負担分	1 袋 200 円	1 袋 400 円	1 袋 400 円
ご注文合計数	(個)	(個)	(個)
品物+送料合計	円	円	円

ご住所⇒ 〒

お名前⇒

電 話⇒

◆販売量に限りがございます。売切れの節はご容赦願います。

○お問合せなどのご遠慮なく、お電話かFaxでお寄せください。

〒010-0103 秋田県大仙市高関上郷字高屋敷42 生産・販売者 佐藤 久男

電話 0187-66-1702 Fax 0187-62-5614

首都圏大曲会

会費のお振込みにご協力
有難うございます。

首都圏大曲会会員の皆様方には、いつも会費のお振込みにご協力頂き有難うございます。皆様方からの会費は、会報「ふるさと大曲」の発行を初め諸活動や会維持のため有用に使用されております。ゆうちょ銀行に口座（通帳）をお持ちの方は、お持ちの口座から首都圏大曲会の口座に振り込むと手数料は低額ですが、現金で振り込むとかなり高額になります。現在、振込み番号を申請中ですが認可が厳しく難航しています。なお、市中銀行等に口座をお持ちの方は、りそな銀行の首都圏大曲会口座をご利用下さい。

年会費 一家族（何人でも可）千円
納入法 ゆうちょ銀行（郵便局）に口座をお持ちの方は、郵便局で振込用紙を受取り、首都圏大曲会の口座にお振込み下さい。

記号 11330
口座番号 20455001
受取人名 首都圏大曲会

◆都市銀行等の金融機関から

店名 りそな銀行九段支店
店番 274

口座番号 1329364
預金種目 普通預金
口座人名 首都圏大曲会

首都圏大曲会会報『ふるさと大曲』第33号 目次

首都圏大曲会幹事座談会

懐かしいあの歌、この歌

—ふるさとの思い出は歌とともに蘇える

4

会長アピール 秋風が光るふるさと

大釜茂璋

9

大仙市市役所訪問

総務部DX推進課（行かなくても済む市役所を目指して）

10

特別講演会「自治体が向かうべきDX」

武蔵大学庄司教授の講演を受けて

小松大

14

【大仙市の話題】児玉裕一前市議会議長 叙勲祝賀会

15

第十三回「四ツ屋まつり」地域住民交流の熱意で大成功！

16

◇佐藤京子女将が語る

乳頭温泉郷・夏瀬温泉 冬の魅力

20

◆東京郊外をぶらり

小平市の「平櫛田中彫刻美術館」を訪問

22

事務局だより「東京で、大曲の花火」を

仲間の広場

26

観る会」中止のお知らせ

編集後記

26

思い出の中の大曲

25

(写真・編集資料提供協力

大仙市、庄司昌彦、鈴木 繁、佐藤 勉、小川 康、飯島陽子、田口恵子、児玉庄司 順不同・敬称略)

地域の
元気の
お役立ち♪GRAN
MART

株式会社 タカヤナギ

Tel. 0187-62-1234 (代)
http://www.e-takayanagi.com

緑なす山、清き川の流れ、若い日唄った歌は今も心に蘇える！

首都圏大曲会幹事座談会

ふるさとの思い出は歌と共に！

大仙市の
振興課長



鈴木
小学校
の頃の
思い出
は、よ
く唄っ

私たちが生まれ育った大仙市は、緑豊かな山々に取り囲まれ、豊かな水脈を持つ瑞々しい田園都市です。私たちはこの詩情豊かな地で生まれ、伸び伸びと育ちました。その生活の中では時代じだいの歌がありました。歌はそこに暮らす人々に元気を与え、悲しみを鎮め、生きる喜びを与えてくれます。首都圏大曲会の幹事たちに、それぞれ懐かしい思い出の歌を語って頂きました。

変革する社会

時代に合わせて歌があった

司会（大釜、以下司会） 私たち大方の人が生まれ育った昭和の時代。それは戦前戦後を通じて今に至る、日本が大きく変わる「変革の時代」でした。社会が大きく変わる中では、人々の気持ちの拠りどころとして歌があります。私たちそれぞれにも、きつと思いの歌、忘れられない歌、懐かしい歌があります。今回の座談会では、幹事さん一人ひとりに、それぞれの思い出の歌や歌にからめるエピソードとともに語って頂きます。

「明るい青い大空の
広がるのぞみよ大曲」
最後のフレーズの
「鳥海山も見えています」は、
特別に声を張り上げて、元気に
歌ったものです。（笑）

村の渡しの船頭さんは
六十歳のお爺さん？

佐藤（健） 私の子どもの頃の
花館には、雄物川を渡る橋がな
く、向こう岸の松山に行くには、
渡し船が唯一の交通手段でし
た。花館小学校低学年の遠足と
言えば、対岸の松山に決まって

座談会参加幹事

（五十音順）

大釜 茂璋（会長）

大友 昭三

大友 律子（副会長）

佐藤 健（監事）

佐藤 重光

鈴木 繁（副会長）

田口 元也

築地 良仁（副会長）

富樫 孝治

*古宮理恵事務局長は令和四年七月、実父岸野賢一様ご逝去のため、座談会には参加できませんでした。幹事一同、岸野賢一様のご冥福をお祈り致します。

いました。遠足と言っても、いつも眺めている対岸の松山まで行くだけですが、誰もが楽しみにしていました。以前、首都圏大曲会主催の「東京で『大曲の花火』を観る会」で、川を渡る

梵天の映像を見て、大変懐かしく思い起こしたものでした。

松山は、春から夏は山菜とり、秋は茸狩や栗拾い、冬はスキーや梵天と、事ある毎に渡し船を使いました。そこで懐かしい歌ですが、小学校四年生頃に教わった「村の船頭さん」は、今でも歌詞とメロディをはっきり覚えてます。松山に渡る渡し船の光景と重なるからでしょう。



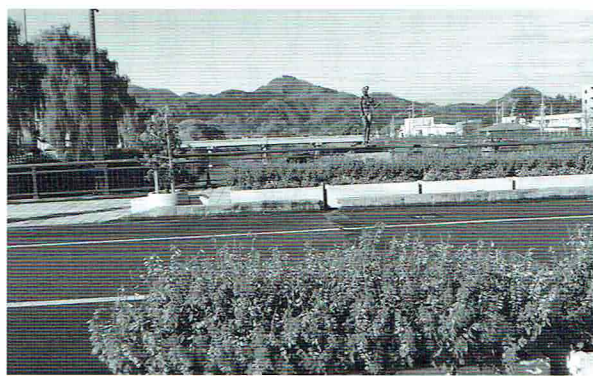
う。「村の渡し船頭さん」は今年

お爺さん 年は取っても櫓を漕ぐときは 元氣いっぱい櫓がしなる それギツチラ ギツチラ ギツチラコ」です。

昔は六十歳でお爺さんでしたが、私八十五歳になった今、自分ではお爺さんとは思えないのは、時代が変わったせいでしょうか。

司会 健さんはお若いですよ。昔の感覚でも八十五歳には見えません。(笑) 医療・医療態勢、薬品等長足の進歩のお陰でしょ

丸子橋からの眺めは、大仙市で育った人なら馴染みの懐かしい風景だ



大平山(姫神山)から望む街並(撮影・山崎兼人)

う。嬉しい事です。ところで、田口さんもこの歌には、強い思い出があるとお聞きしました。

オーディションで落選

した思い出も懐かしい

田口 昔懐かしい歌と言えはいろいろありますが、私も「村の船頭さん」に懐かしくも強烈な思い出があります。

今でもこの童謡は、時々口ずさむことがあり、一番ならばしっかりと歌詞も覚えていま

す。

それは確か小学校低学年だったと思います。NHKのラジオ番組で、「子どものど自慢大会」のようなものがありました。なぜその番組が思い出として残っているのかといいますと、今で言うオーディション(予選会)で私は落選し、本番組に出られなかったと言う苦い思い出があるからです。

会場は大曲小学校の体育館でした。家族のみんなが応援に駆けつけてくれましたが、直前の選考会で落選したのでから多分、みんながっかりして帰った



と思います。あまりそんなことは覚えて

はいません。しかし選曲はこの「村の船頭さん」だったこと、そして「のど自慢大会」に出るために、我ながら涙ぐましい特訓を重ねたことが思い出として残っているからです。

司会 涙ぐましい特訓とは、どんな特訓をしたのですか。

田口 あの頃は、まるで自分は歌手を目指しているかのよう

の前で何度も何度も歌い続ける

日々でした。のどが渇きかすれ声になるとのど飴を舐め、水蒸気をのどにあて、ボイス 트레이ニングを繰り返しました。そんな努力にも関わらず予選落ちしたわけですから、家族のがっかりは想像して余りあります。本人と言え、この厳しいレッスンから解放されるのですから、あまり落胆はしなかったことを覚えてます。何しろまだ小学校の1年生だったか2年生の頃のことでしたから。(笑)

先ほど健さんも話していましたが、西山のお薬師さんに行くためには、必ず渡し船に乗って行かなければなりません。歌の船頭さんは「六十のお爺さん」ですが、もうその年をとくに越えた者にとって六十はまだまだ若く、時代の変遷を感じます。司会 懐かしい、遙かな思い出を有難うございます。(笑) 他に小中学校時代の歌にからむ愉快な思い出はございませんか。

カラオケが大嫌いに

なった原因は...

大友昭三 中学2年生の時だったと思いますが、宿題で音楽の作詞作曲を課されたことがありました。子どもの頃から、私は

歌うことは苦手だったのですが筆記試験はそこその成績をとっていましたので、宿題も張り切ってやった記憶があります。ところが、宿題で作った私の曲はあまりにもへんてこな歌だったと見えて、先生に、クラスみんなの前で歌ってみるよう

に言われました。そこで私は大きな声で歌ったつもりでしたが、あまりに調子はずれだったらしく、クラスの仲間には、お経か神社で聞くのりとのように聞こえたらしく、それまで我慢していたクラスの人



大曲商工会議所

会頭 齋藤 靖

〒014-0027 秋田県大仙市大曲通町1-13
【本部事業部】TEL 0187-62-1262
【花火振興事業部】TEL 0187-88-8073
URL : <https://www.omagari-cci.com>



れまし
た。張
り切っ
て歌っ
ただけ
に私は

真つ赤になつて椅子に腰を下ろしたものでした。そのせいか歌を歌うことがトラウマとなつて、今でもカラオケは大嫌いです。歌詞などはもちろん忘れしました。(大笑い)

今も心に響くNHK

ラジオ「鐘の鳴る丘」

富樫 子どもの頃はテレビはなかったし、あの頃はラジオ全盛の時代でした。学校から帰ると忙しい親に代わって弟の面倒を見るのが日課でしたが、夕方に放送される「鐘の鳴る丘」が楽しみでした。むずかる弟をあやしなから、夕方になるとラジオから、キンコン キンコン キンコン キンコンと流れてきて、児童合唱団の元気なコーラスが「緑の丘の赤い屋根」とんがり帽子の時計台 鐘が鳴ります キンコンカン」と歌う声に耳をすましたものです。放送劇の内容は、戦争で親を失った子どもたちが、丘の上の児童収容施設で元気に明るく生きてい



両親や兄弟たちと過ごしたあの頃と重なり、忘れられない歌です。

司会 戦中戦後を子ども時代として過ごしてきた私たち世代にとって「鐘の鳴る丘」は、物語もそうですが、あの歌は誰もが懐かしい心に焼き付いた忘れ得ぬ歌でしょう。戦争で辛い体験をした子どもたちが、元気に仲良く生きる姿は、聴く人の心を打ち、励まされるものでした。それだけに富樫さんの気持ちも分かるし、私は今でも散歩のときなど、キンコンカンと口をついでいることがあります。

森のフクロウは

この森の見張り役

大友律子 小学校のことを今でもはっきり覚えていたことが不思議です。若い頃の頭は鮮明だけに、記憶もちゃんと残ってい



るものですね(笑)

私は「森のフクロウ」という歌が今も懐かしく、記憶の底に強く残っています。

『森のフクロウが言いました
私は森の見張り役、
子りすも小鹿も母さんに
抱かれて夢見て
ねんねしな
ごろすけホーホー
ごろすけホーホー』

小学校低学年の頃だったと思いますから多分1年生か2年生だったでしょう。ある日、担任の先生が学校を休まれたことから、急遽、教育実習に見えていた男の先生(大学生)が、私たち全員を音楽室に連れて行き、古い木製のオルガンでこの曲を弾いて歌ってくださいだったので。音楽は得意ではないと先生は仰っておられました。この曲はこれまで教わったことがなかったもので、子どもながらに不

思議な雰囲気のある歌に感じたものでした。今振り返ると、映画「二十四の瞳」の一シーンに出てくるような、昭和の雰囲気を感じるロケーションを彷彿させてくれます。今でも気持ちが



晴れやかな日は、ふと鼻歌に出てきては

可笑しくもあり、懐かしい小学校の頃に帰る自分を愛しく感じています。

一升瓶を前に叔父さん

と唄った「生保内節」

鈴木 小学校の頃と言えば、妹と声を合わせて歌った「背くらべ」。「柱のキズはおとしの、五月五日の背くらべ」と歌いながら、本当に柱にキズを付けて怒られたことが懐かしく思い出されます。運動会の季節になると「春の小川」。雪が溶けて土手に黒い土が現れるのが待ち遠しく、この歌はその待ち遠しかった春を運んで来てくれたような感じで、大きな声で、弾む気持ちで歌ったものです。

と、近所の菅原酒店に、一升瓶をさげて、量り売りの酒五合買ってくるのが私の役目でした。父が仕事でいないときは、私を相手に「おぼねぶし」(生保内節)を歌い始め、「繁も一緒に唄え」と言われて一緒に唄わされたことも懐かしく思い出されます。

司会 「生保内節」といえば、大仙市が生んだ民謡歌手千葉とし子さんですね。

鈴木 母は琵琶の奏でる音楽が好きで人でした。三輪明宏が唄っていた「よいとまけの歌」が大好きでした。「ジェンコ(お金)無くても人間は、身体が丈夫でなければダメだ」と言って、ラジオを聴きながら一緒に歌っていました。

私は牛込病院の同級生と一緒に、昆虫採集をして、標本づくりに励んでいた頃です。上京した兄ちゃんに採集道具を買って貰い、野原や山に行つては「ちようちよ、ちようちよ」と大声で唄いながら蝶を追っかける毎日でした。長兄が上京することになって、姉や妹と三人で唄った「ふるさと」も懐かしく思い出されます。「兎追いかの山小鮒釣りしかの川」。大曲は、山と言えど西山の太平山、川と言えど雄物川、丸子川、玉川と、

この歌の情景にはびつたりのおふるさです。中学生の頃、新開地に新しく映画館「民映」が出来て、事務所に入り込み無料で映画を観たものです。月岡劇場では、「おいら岬の灯台守は」と、家族の絆の大切さを唄った若山彰の力強い歌声が流れていました。「禁じられた遊び」の映画と、あの切ない曲を思い出すと悲惨なソビエト進行のウクライナを思い、辛くなります。

月光仮面は

私のヒーローだった

築地 私にとって懐かしい歌とは、子どもの頃の娯楽の王様だった映画で流れる主題歌につきます。私は月岡映画館の息子だったので、よく映画を観ました。もちろん入場料はいらず、ただ見ができたわけですから、当然見放題でした。なかでも「月光仮面」の映画が気に入って、「どこの誰かは知らないけれど、誰もがみんな知っている」という月光仮面の歌が大好きでした。まさに小学生の私にとって月光仮面は「私のヒーロー」でした。母に白いシャツで、三日月マークの付いた白いターバンと白覆面、白いマントとマフラーを作ってもらい、姉の白い

タイツと白のセーター、親父の黒のサングラスと皮の手袋、それにゴム長靴が、颯爽たる私の月光仮面でした。

学校から帰ると、近所の仲間達と毎日「月光仮面ごっこ」で



遊ぶのが、あの頃の日課でした。そうそう、

う、町内の仮想盆踊り大会で優勝もしました。(笑) 今この年齢になっても月光仮面の歌はしっかり歌えますよ。

どこの誰かは知らないけれど誰もがみんな知っている

月光仮面の小父さんは

正義の味方よ良い人よ

疾風(はやて)のように現れて

疾風のように去っていく

月光仮面は誰でしょう

月光仮面は誰でしょう

司会 腕白で元気な男の子らしい様子が目に浮かびます。白い

シャツを一枚台無しにして作ってくださったお母さんの愛情を感じます。(笑)

母さんの白髪を

気にした子どもの頃

大釜 私は今は中仙小学校(当

時の長野小学校)に統合されて廃校になっている鑑見内小学校を卒業しました。小学校4、5年生の頃かと思いますが、休み時間になつて教室から廊下に出ると、隣の教室はまだ音楽の授業をやっていました。

「母さんお肩をたたきましょう

タントンタントン タントン

トシ」

「母さん白髪がありますんね

タントンタントン タントン

トシ」

ふと壊れた扉の隙間から覗いてみると、教師として同じ学校に勤める母が教壇の上に座り、若い女の先生が母の肩をたたいて、歌詞の情景を演出しているところが目に飛び込んできました。母はまだ若いとばかり思っていた私にとって、演出かも知れませんが、背を丸めて若い先生に気持ちよさそうに肩を叩かれている母が無性に愛しくなり、子どもながらに寂しい思いをしたことが、今でも強烈に心に残ります。別にこの歌が嫌いではありませんが、心の隅に寂しさを感じたのは多感な年頃の始まりに聞いた、初めての歌だったのかもしれない。



幼い頃、一緒に遊んでもらったお姉ちゃん(右端)
*お手製の鯉のぼり。遙か懐かしい思い出の歌だ

障子紙でつくった お手製の鯉のぼり

司会 いい思い出でをお持ちですね。やるせない気持ちにさせられます。(笑)ところで5月の、青空が続く頃になると懐かしい光景が思い浮かぶ歌があります。私が小学校の頃のことです。私が小学校の頃のことです。私から、戦後の物資不足。何もない時代から端午の節句に揚げる鯉のぼりは、緋鯉も真鯉も、吹き流しすら色が褪せて、揚げてもまったく勢いは感じられませんでした。男の子は私を含めて三人兄弟。そこで母はこの子のために考えたのでしよう。ある五月

晴れの朝、母は八畳間と六畳間の襖を外して広間にし、一人で白い障子紙を継ぎ足して、長さは五、六メートルはある大きな鯉のぼりを作り始めたのです。「母さんは何をしてるんだ?」と固唾を呑んで見ていた子どもたちが、それが母お手製の紙の鯉のぼりと分かると、大騒ぎで顔や手足まで絵の具まみれになりながら、皿に溶かした絵の具で、鯉の目



を
する
こと
が多
く、
その
時
は
い
つ
も
歌
と

草を刈りながら 唄った「リング追分」

玉や鱗を描いたものです。やがて立派とは言えないけれど母子共同製作の紙の鯉のぼりは出来上がりしました。そして絵の具が乾くのを待って、庭の柵の木を支えにした長い丸太に、括りつけた紐に吊るされ、子どもたちが声を合わせて歌う「大きなあれ 日本男子」と、今は歌われなくなった当時の鯉のぼりの歌とともに、ガサゴソ音を立てて昇っていきました。

五月、マンシヨンの窓から小さな鯉のぼりが覗いていたりすると私は、遠いあの時の光景と歌を懐かしく思い出すのです。

佐藤重光 私は中学校卒業後、

四ツ屋中学校で英語と音楽の教

師だった小松策郎先生のお宅

で、いわゆる若勢として住み込

みで働きました。奥さんと一緒

に田んぼに出ることもありまし

たが、大部分は一人で田畑仕事



西山を背に丸子橋から東を望むと、「花火アム」から館の橋、こもりと大山寺の杉林、遙か東山(奥羽山脈)が連なる

懐かしいふるさとの光景は 忘れ得ぬ音と共に心の中に残る！

一緒でした。

美空ひばりの「越後獅子の歌」「リング追分」や「悲しき口笛」「悲しい酒」など、ラジオから流れてくる演歌を聴きながら、色々な情景を重ねたり、憧れたりしながら精を出しました。

当時の農作業は、馬や牛の力を借りての作業でしたから、朝1時から2時には起き、家畜の餌とする草刈りは大事な仕事でした。今は花火会場になっている

雄物川の河川敷まで暗い中、荷

車かりやカーを引いて草刈りに行ったものです。河川敷には朝露がしっとり降りていて、朝露が消える前に刈らないと鎌が切れなくなるものでした。朝日が昇る頃には草を刈り終え、山のように草を積んだ車を弾いて意

気ようよう、ほとんど鼻歌を唄いながら帰るものでした。それはきまつて美空ひばりの「越後獅子の歌」であったり「リング追分」だったり。今でもあの頃の私の日常は演歌とともにあったのだと、懐かしく振り返るのです。

青春の涙に曇った 「雪の降る街を」

大釜 私は秋田市で高校

時代を過ごしましたが、その

の当時NHKのラジオド

ラマ「えり子とともに」の

挿入歌だった「雪の降る街

を」が、懐かしい歌の一つ

です。卒業を間近かに控

え、どこかうら寂しい雪の

降る夕方、のっさのっさと大きな雪が降る広小路のお堀端を歩いていると、「思い出だけが通り過ぎて行く 雪の降る街を」この想い出をいつの日かつつまん」と、お堀の向こうから、この曲がかすかに聞こえてきました。

間もなく受験で東京に発たなければならぬ心境と不安が募り、三年間過ごしたこの町が、無性に愛しく、寂しさを覚えたのです。東京には行きたくないなという思いが、千秋公園に入る通りの街灯が滲んで見えたのは、いささか感傷に浸っていたのかもしれません。今も時折テレビからこの歌が流れてくると、あの頃の不安な気持ちやよみがえり、懐かしくも忘れられない私の歌となっています。

今回の首都圏大曲会幹事の座談会は、ふるさとで過ごした時代を彷彿させる「懐かしい歌、忘れられない歌」と、その歌にからむエピソードを語って頂きました。それぞれの歌にはその人の歴史があり、「私の歌」として熱い思いがありました。ふるさとはその思い出の歌とともに大切に温めて、若い日の宝物としたいものです。

乳頭温泉郷

黒湯温泉

〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生内字黒湯沢2-1

TEL 0187-46-2214 FAX 0187-46-2280

HP <http://www.kuroyu.com>

いつもありがとうございます

SHIMADAHAM

ドイツ伝統製法ソーセージ&ハム

株式会社 嶋田ハム

各種 贈答品承ります

TEL.0187-62-3278 平日 9:00 ~ 17:00



会長アピール

秋風が光るふるさと

刈入れ後の大曲に帰省しました

首都圏大曲会 会長 大 釜 茂 璋

十一月今年の紅葉は
鮮やかに残っていた

一年振りに大曲に帰った。

盛岡駅で東北新幹線と別れて田沢湖線に入ると、「こまち」の車窓右手に岩手山が見えてくる。

片富士と言われる通り頂上の片側が欠けて見えるが、ふるさとに向かう私の心をほっと安らぐ気持ちにさ

せてくれる山だ。いつもはこの季節になると真っ白に雪化粧をして迎えてくれるが、今年の雪は頂上付近に鉢巻きしたような、線状に巻いている程度だった。雪の季節が遅れているらしい。

ふるさとに帰るという逸る気持ちを抑えて、なだらかな稜線を描くこの山を見ると、走っている線路の延長線上にふるさとの大曲があると言ふ気分が、安堵感に変わる。ふるさと秋田の穀倉地帯、広々とした仙北平野、その向こうに大平山（姫神山）が見えて、賑やかで明るい大曲の街が待っていてくれる。

盛岡駅を出て一つ目、大釜駅で上りの「こまち」とすれ違う。小岩井、雫石と過ぎて山中に入っても、赤や黄色に色づいた今年の紅葉は見事に残っていて、奥羽山脈を越えて田沢湖駅に着いても、晩秋の彩は変わることがなかった。紅葉の季節は過ぎたのだと思って帰っただけに、何だか得した感じで嬉しかった。

それにしても今年の帰省は好天気に恵まれた。青く、逞しく、力強く続く奥羽山脈、その向こうに鳥海山がくっきり。秀麗無比なる〝と県民歌に歌われる端麗な姿を絵のように浮きだたせている。

車窓に迫る出羽丘陵の山並みは、緑の中に色づいた樹木が点在し、山裾に広がるスキの穂は、透き通った秋風に揺れている。

着いた午後の大曲駅前は意外に静かだった。「大曲の花火・全国花火競技大会」の看板が目に入る。三年ぶりに開催されたこの夏の花火大会を思いながら、「ここが俺のふるさとだ」という気持ちがひしひしと強くしたものである。

実際に大曲の町場で過ごしたわけでもないが、子どもの頃、朝からボンボン花火が揚がる大曲の花火の日の興奮が蘇るということは、自分のふるさとという感情の中に「大曲の花火」の日が一緒に刷り込まれているからであろう。

菩提寺参詣と 同級会参加が目的

今回の帰省は、一年に一度の菩提寺の墓参りと、小学校の同級会参加が主な理由だった。両親や、早世した姉妹が眠る菩提寺・毘沙門山多寶院の参詣も、私が心からふるさとを慕う原点となっている。

お墓の周りを家族さんの手で綺麗に掃き清められて、真っ赤に染まった紅葉が秋の光に照り映えていた。ちょっと間抜けたような、「カー」とひと声、カラスの鳴き声ものんびりして、これもふるさとの雰囲気だ。小学校の同級会は毎年一回、ここ何十年と続けられている。

私の出た小学校は当時の長野町立鐘見内小学校で、全校生二百数十名の小さな学校だった。児童数の少な

くなった今日では、都会でも珍しくはないが、少人数だっただけに、今でも仲良しで、延々と年一回の同級会が続けられている。幹事さんの努力に感謝しながら、私のふるさとを慕う源泉になっている。同級会の都度、歌を詠んでくださる田口恵子さんが、今年も詠んでくれた。

花吹雪 天まで揚がれ

物故なる 14名の友垣がいる

42名の学級だった。卒業して七十数年、今や物故者は14名を数える。懐かしい友人たち。風に舞い上がる花吹雪よ、天にいる私たちの友だちに、花束となって届けておくれ。

飾りなど何もいらぬ昭和の子
声かけ集う ここがふるさと

髪飾りもイヤリングも、おしゃれなどすることは無い。私たち一同はあの戦争の時代を生き抜いた昭和の子だ。仲の良いのが唯一の財産。お互いに声かけあって集まれば、そこが私たちが安らぐ心のふるさとだ。

囲炉裏辺に「凍てるわら靴」並べ干す
童の頃の 冬をまぶしむ

何もなかったあの頃。ましてゴム長靴など高嶺の花だった。冬の子どもの履物はわら靴。雪が凍みて冷たいから囲炉裏の火で温めた。わら靴の履き口の赤い布が、せめてものおしゃれ。まぶしいような子どもの頃の冬の思い出。

校庭に樹齢重ねて シンボルの

柳大樹の 姿目に浮く

そういえば小さな学校に似合わないほど、校庭には大きなしだれ柳の木が立っていた。まさに学校のシンボルだった。古木でもあり、学校統合とともに切り倒されたが、ここで学んだ人には、今でも目を閉じれば雄大な柳の姿が浮かぶ。

大仙市市役所訪問

飛翔する大仙市

デジタルを最大限に活用し

行政事務の効率化と住民サービスの維持・向上を図る!

総務部 DX 推進課

誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化実現を目指す!

超高齢化、少子化・人口減少

「2040年問題」に対応して



DX推進課のみなさん。小松大課長を中心に左から
管理班 小野寺航主事、班長・佐々木貴広副主幹、本郷晋也主任
右に推進班 班長・三浦透主幹、高野祥主任、今 暁(あき)副主幹



小松大DX推進課長

今年七月に開催された大仙市首都圏ふるさと会で、老松市長から大仙市の現状とともに未来に向けて成長戦略についてのご報告がありました。大仙市は令和4年5月、政府からSDGs未来都市に選定されるとともに、デジタル変革を加速し、わざわざ市役所や出張所まで行かなくても済む社会環境を目指す成長戦略を策定しました(関連記事は「ふるさと大曲」32号に掲載)。デジタル社会はスピードを加速して、私たちの生活にも変化をもたらしていきます。そこで令和3年4月、多くの期待を込めて新設された総務部DX推進課を訪問しました。(大金)

市のデータやデジタル技術の柔軟な活用

小松 大課長(以下課長) 2020年、世界は新型コロナウイルス感染症の爆発的拡大の危機に直面しました。

日本もこれまで経験をしことのない、まさに国難と言うべき局面に置かれました。この中で行われた定額給付金といった感染症対応策については、受給申請手続きや支給作業における遅延や混乱はメディアで大きく報じられ、行政分野でのデジタル化・オンライン化の遅れが明らかになりました。

ここ数年、「DX」は「デラックス(贅沢、豪華)」という意味合いに使われていることが殆どでした。しかし当課名も含め、このところ新聞やテレビなどで目にするDX(デジタル・トランスフォーメーション)とは、「データとデジタル技術を活用して、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化や風土を変革する」とされています。

新型コロナウイルスにおける作業遅延の例に見られるように、日本社会におけるデジタル化は、先行諸国に比べ相当遅れていることが明らかになりました。そこで「新たな日常」を実

「DXとは聞き慣れない言葉ですが、その意味するところは何か。」



コニカミノルタ株式会社と大仙市老松市長による「連携協定締結式」はオンラインで行われた

大仙市においても、生産年齢人口（15～64歳）は、2015年と比較して、半分近くまで減るとされており、同様に市の職員も減少することになります。その状況下においても、住民サービスの低下を招くことのないよう、担うべき機能を維持していかなければなりません。

現させる原動力の一つに、行政のデジタル化を二丁目一番地の最優先課題として、社会全体のDXを推進することになりました。つまり、国を挙げてDX推進の機運は、新型コロナウイルスの拡大が契機となったと言っても過言ではありません。

もう一つの国難として2040年問題

課長 皆さんは「2040年問題」という言葉をご存知でしょうか。「超高齢化社会」「少子化・

人口減少」が深刻な社会問題として取り上げられることが多くなっていますが、2040年頃には、団塊の世代が65歳以上となり、高齢者の人口がピークになります。同時に、労働力の絶対数が不足することで、介護・医療・教育などが深刻な状況となり、年金や医療費といった社会保障費も増大します。これまでは、「高齢者の急増」が大きく取り上げられていましたが、むしろ「現役世代の急減」に局面が変化してきたと言えます。

国のビジョンと 地方自治体の対応

課長 国は、目指すべきデジタル社会のビジョンとして、「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことが出来、多様な幸せが実現出来る社会、誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」を示しています。

このビジョンの実現のためには、市区町村の役割が極めて大きいとされています。

そこで、人口減少に伴う職員

数減対策および住民サービスの維持・向上を図るために、根本的な業務の見直し（旧態依然の業務手順がまだ残っています）と、デジタル技術やデータの最大限の活用、すなわち「自治体DX」の推進が求められています。

つい最近まで、手続きの際には「押印」という行為が必要となり、「紙」や「対面」は当たり前前の行為でしたが、今では印鑑が不要となり、ペーパーレスやWeb会議が浸透・定着してきています。このケースも自治体のDX進展の一つです。

大仙市DX推進課の業務

課長 令和3年4月1日、当課はこれまでの企画部から総務部に移管し、課名も新たに「DX推進課」となりました。「推進

班」と「管理班」の2班体制となっており、それぞれの業務から大仙市DXの推進に繋がるように、日々努力しております。それぞれの班の業務内容は次の通りです。

【推進班】

自治体DXに向けた具体的な施策の検討・導入・調整を行っています。

（令和3年度）

◇「大仙市DX推進ビジョン」の策定

・地域の価値を高め、さらに新たな価値を生み出すことの出来るまちへの進化を目指して、3つの方針のもとに、デジタル変革（DX）を推進する

- ① 地域価値創造
 - ② 市民サービス向上
 - ③ 行政運営効率化
- ◇コニカミノルタ株式会社との連携協定締結

・市役所内すべての課を対象に「業務量調査」を実施
・提出されたデータは、コニカミノルタにより分析され、各課の業務を「コア業務（正規の職員でなければできない業務）」と、「ノン・コアの業務（正規職員でなくてもできる業務）」に振り分け

・「ノン・コア業務」については、新技術の導入や外部委託を積極的に検討
・業務効率化に向けたベースとなるデータとして活用

◇その他

・テレワーク環境およびWeb会議環境の増強、職員向け各種研修の実施、など

（令和4年度）

◇CIO補佐官を任用

・秋田県DX推進アドバイザー九島正広氏を、大仙市CIO補佐官として任用。全庁的なDX推進に関する助言を求めることになった。

◇市窓口でのキャッシュレス決済の導入

◇オンライン申請サービス導入



大仙市がDXを推進するには、まず率先して職員の人材育成が重要（大仙市職員DX推進人材育成プロジェクト 第1回キックオフミーティング）



- ・「行かなくても済む市役所」に向けた取組の一つ・住民票や課税証明書など5種類の証明書について、スマートフォンとマイナンバーカードを使用した申請・決済が可能となった。
- ◇マイナンバーカードを使用したコンビニ等での証明書交付サービスを開始
- ◇「大仙市職員DX推進人材育成プロジェクト」を開始
- ・意欲ある若手職員を公募により任命
- ・今後、市がDXを推進するに

- 当たって、必要となる様々な経験をしてもらい、組織にとられない全庁横断的な視点により、施策を策定・評価できる職員を育成する。
- ◇高齢者向け「スマートフォン教室」を開始
- 【管理班】
- 庁内の各種システム・機器・ネットワークの保守および強固な情報セキュリティ管理を行っています。
- ◇令和3年度
- ◇自治体マイナポイントモデル事業（総務省）



市民を対象にしたスマホ教室。「楽しく学ぶ」をモットーに好評です

「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」を目的にした所属長向け研修会

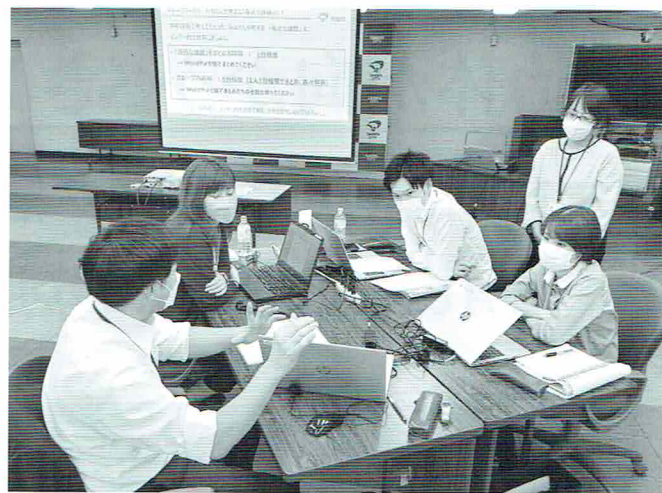
- ・結婚・出産ライフイベント該当者や、「健康まちづくり」プロジェクト参加者を対象に、市が支給する「自治体マイナポイント」を、d払いやWAONなどのポイントに交換し、利用できるようにする仕組み
- ・総務省による実証事業に応募して採択、実施
- ◇令和4年度
- ◇電子決裁の導入
- ・文書管理システムおよび財務会計システムに電子決済を追加
- ・決済者の不在や本庁支所間の異動など、時間の短縮化・ペーパーレス
- ・テレワーク等働き方の多様化

- への対応
- ・これにより生み出される「時間」を、各職員本来の業務に向けることも目的の一つ
- ◇基幹系業務システム標準化への対応スタート
- ・日本全体で1700を超える地方自治体が、いわゆる基幹系の情報（住基・税・福祉等20業務）を取り扱うシステムは、基本的にはそれぞれ独

- 自で導入（一部共同利用）している。
- ・デジタル庁の号令の下、このシステムを2025年度末までに全国標準化・共通化することになっており、該当する課においては、これまでの業務を根本的に見直さなければならぬ。
- ・3～4年に及ぶ一大プロジェクトと位置づけている



オンラインは有効に活用されている。首都圏在住の講演講師との事前打合わせ、市長等幹部職員による庁内オンライン会議、友好交流都市の神奈川県座間市長と大仙市老松市長とのオンライン会談など



研修は各階層を対象に、様々な内容で行われた。グループによるディスカッションも取り入れられている



市民課窓口では、スマホやクレジットカード等で証明書手数料の支払いもできる

・当課では、各課における進捗状況の管理と、必要な技術的サポートをするともに、システム構築業者との連携を、今後継続していく。

― 大仙市のDX推進策が真剣に動き出したことが力強く感じられ、理解できました。その動きによって、市民生活に多くのメリットをもたらすことになるでしょう。今後の具体的な行動をご説明ください。

大仙市のDX政策の向かうところ

課長 国におけるDX推進施策は矢継ぎ早に公開されており、同時に、DXを進めていくため

- の環境もここ数年で大きく変化しています。大仙市においても、国が進めるスピードに乗り遅れることなく、そして、市の気候風土・市民構成などにマッチした施策を検討し、積極的に導入していく必要性を感じています。
- 前述した「大仙市DX推進ビジョン」においては、市職員も一丸となってデジタル変革を受け入れ、機運を醸成していくことが重要としています。大仙市はそのための行動指針として、次の6点を挙げています。
- ①市民ファースト
行政は市民のためにあることを忘れず、今後施策の導入にあたっては市民目線であることを第一とします。
 - ②現場での事実・データを重要視する
机上の空論や思い付きで終わ
 - ③部門を越えて強調し、担当分けによる線を引かない
いわゆる「縦割り」の組織から、横断的な取組みにより、サービス提供できる組織を目指します。
 - ④一人ひとりが主体的に行動し、できない理由を並べない
住民ファーストのもと、出来ない理由を並べるのではなく、できる理由や方法を考え、行動します。
 - ⑤変化や挑戦を恐れず、失敗を糧とする
従来の制度・慣行を根底から見直して、新たな挑戦に向かい、失敗は次の挑戦への糧にします。
 - ⑥誰一人取り残されない
市民だけではなく、職員を含むすべての関係者が、総合的にデジタルの恩恵を受けることができるよう、色々な角度から取

首都圏大曲会からも注目頂きたい

り組みます。

令和4年は、3年ぶりとなる「第94回全国花火競技大会 大曲の花火」を、8月27日に開催することができました。生憎の雨でしたが、大勢の方々（主催者発表60万人）に観覧頂き、私たち職員も感激とともに、改めてふるさとの素晴らしさを実感致しました。

何をするにしても新型コロナウイルスウィルスに振り回される中で、大会主催側はこれまでの慣例にとらわれない運営に徹していました。これには多くの関係者の深い配慮と思考があったことは、容易に想像できます。

私たち大仙市のDXを進める立場といたしましても、現状の業務を思い切っで見直し、次のステージに進むために、全職員の機運を高めてまいります。同時にその時々々の社会情勢に柔軟に対応した施策を進め、その結果において市民の皆さまの生活が、デジタルの恩恵により豊かで心から誇れるようになるよう努めてまいります。

首都圏大曲会の皆さまにも今後の大仙市のDXへの取組みにぜひご注目頂き、それとともに様々なご意見を頂きたくお願い致します。

外国人技能実習生受入団体

だいすき協同組合

代表理事 赤木 達司

TATSUSHI AKAGI

携帯/090-1353-7455 E-mail/dc284752@kg8.so-net.ne.jp

□東京本部

〒154-0024

東京都世田谷区三軒茶屋1丁目39-7 ライオンズ「ステーションラサ」三軒茶屋604

TEL 03-6320-0117

FAX 03-6320-8339



(名)鈴木酒造店
大仙市長野寺2丁目9
電話0187-5612121

ひでよしーひょうたん
お酒を注ぐ時に聞こえる「こぼこぼ」という音も、より一層お酒をおいしく感じさせてくれます。軽快な口当たりと爽快感をお楽しみ下さい。



本醸造生貯蔵酒

300ml ¥396(税込)

新しい時代に即応して
市役所職員も猛勉強中！



自治体が向かうべき DX

(デジタル・トランスフォーメーション) とは

12月8日 大仙市で特別講演会を開催



デジタル社会の進捗につれて、デジタルへの関心は益々強くなります。七月に老松市長も出席して東京で開催された大仙市首都圏ふるさと会懇話会でも話題になりましたが、大仙市のDX活用状況は、市民やふるさと会の会員にとっても関心の高いところです。全ての市民や市の関係者がデジタル化のメリットを享受できる大仙市構築を目的に、十二月八日、大仙市は東京から講師を招き、市長を初め市職員や市議会議員など多数が参加してDX勉強会を開催しました。特別講演会を主催担当したDX推進課の小松課長にご報告いただきました。

「自治体に向かうべきデジタル・トランスフォーメーション」をテーマとした特別講演は、老松市長を初め市幹部職員、各部DX推進担当職員、市議会議員などの参加で大盛況だった

庄司教授の講演を受けて

大仙市総務部DX推進課

課長 小松 大

令和4年12月8日、武蔵大学庄司教授をお招きし、「自治体に向かうべきデジタル・トランスフォーメーションとは」をテーマに講演会を開催しました。

庄司教授は、武蔵大学社会学部メディア社会学科教授として教鞭を執られる傍ら、総務省やデジタル庁等の有識者会議の座長や委員さらには東京都をはじめ全国各地の自治体DX関連アドバイザーを務められるなど、まさに日本のDXを牽引されている方です。お母様が大仙市大曲の出身で、そして首都圏大曲会の大釜会長の甥にあたるという大きなご縁に恵まれ、今回の講演講師を打診したところ、快くお引き受けくださいました。

講演会には、老松市長を初め市議会議員、市幹部職員及び若手職員で構成するDX推進プロジェクトメンバーの約六十名と、同時配信された講演を自席で視聴する職員数十名が参加しました。また、講師と参加者が双方向に質問するなど、意思の疎通ができる「Slide」というツールを同時に利用しながら進められました。

講演の資料は、基礎的なデータの確認から始まり、「自治体DXの背景」として「過去の失敗」や「未来への備え」など、具体的な例を挙げられ、各自治体が一実施すべきこと「考えるべきこと」に触れられました。資料の内容はとても興味深くあつと言う間に予定された百分が過ぎてしまいました。参加者はそれぞれの立場から、DXを活用した大仙市が今後向かうべき姿を描き考えたようです。

「とても刺激的な内容だった」「今からでも、取り組むべきことがあるのでは」「デジタル改革はアナログ改革」というワードに感銘を受けた」など、この講演会を主催した私どももとても嬉しくなる言葉をいただきました。また「Slide」への多くの投稿は、当課が今後取り組むべき施策を検討していく上で、大きな収穫となりました。思いがけないご縁から生まれたこの講演会で、我々地方行政に携わる者にとって、計り知れない大きな財産を頂くことが出来ました。大釜会長と庄司教授には心から感謝申し上げます。そしてこの先も、このご縁をさらに強く繋いで頂きますようさらに首都圏大曲会の皆さまからも、これまで以上に応援頂きますようお願い致します。

庄司 昌彦（しょうじまさひこ） 武蔵大学教授、国際大学GLOCOM主幹研究員、東京大学情報学環客員研究員、（公財）情報通信学会理事、デジタル庁マイナンバー制度及び国と地方のデジタル基盤抜本改善WG構成員、デジタル庁オープンデータ伝道師、デジタル庁データ戦略推進WG構成員、総務省地方自治体のDX推進に係る検討会座長、東京都東京データプラットフォーム協議会推進会議委員、他

児玉裕一前大仙市議会議長

秋の叙勲で「旭日双光章」受賞

12月3日 大曲エンパイヤホテルで祝賀会開催

老松市長や御法川衆議院議員など
百二十名が出席して栄誉を称える
地方自治に尽くした功労

児玉祐一氏は長年にわたり大仙市市議會議員や市議會議長として、大仙市の発展に尽くされました。令和2年に引退していますが、その後も長年の経験を活かして活躍しています。この功績に対しこの秋の叙勲で「旭日双光章」を受賞しました。



旭日双光章を受け、大勢の出席者から祝福を受ける児玉裕一夫妻



上は功績を称える老松大仙市長、下は同じく御法川衆議院議員

出席者に答礼の挨拶をする
児玉裕一前市議會議長夫妻



祝賀会は前議長の栄誉を称え、
百二十名の参加者を得て盛会だった。
老松市長の姿も見える



首都圏大曲会から
祝意を表しました

児玉裕一氏は首都圏大曲会の総会に市議會議長として、あるいは議長代理として毎年出席し、ご挨拶を頂きました。議会でも首都圏大曲会の活動を良く理解してくださり、応援して頂きました。

この度の叙勲で「旭日双光章」受賞に当たり、12月3日の祝賀会には首都圏大曲会からも祝電を打ってお祝いをしました。長い期間にわたり市會議員として、

地方自治における功績を認められ、叙勲された栄誉に、首都圏大曲会として心よりお祝いを申し上げます。
これに対して首都圏大曲会宛に「今後も地域発展に努力したい」と力強い丁寧なお礼状を頂きました。

「第13回 四ツ屋まつり」盛大に

地域住民交流の熱意を結集

現公民館では最後のまつり

夜空彩る大スターマイン（響屋）

ステージ演芸やおまつり広場

大仙市四ツ屋地区で開催する「四ツ屋まつり」は、今年第十三回目を迎え、十一月九日（日）、ステージ演芸やおまつり広場、展示コーナーなど、四ツ屋公民館を会場に華やかに開催されました。夜は響屋大曲煙火株式会社による花火の打ち上げがあり、今年も大きな盛り上がりを見せました。



大灯籠の上に打ちあがる花火。大きな歓声があがる

大曲中と四ツ屋小の器楽 コラボレーションで幕開け

新型コロナウイルスの感染が一向に衰える形跡もなく、四ツ屋まつりの開催は今年も憂慮されました。しかし、主催する四ツ屋まつり実行委員会は、「こんな時だからこそ感染防止に万全を期し実施しよう」と踏み切ったものでした。

今年で13回を誇るこのおまつりは、地域住民の夢と情熱が結集されたイベントで、地域活性化を呼び起こしたとして、大仙市各地域のみならず、県内外からも広く注目されているおまつりです。

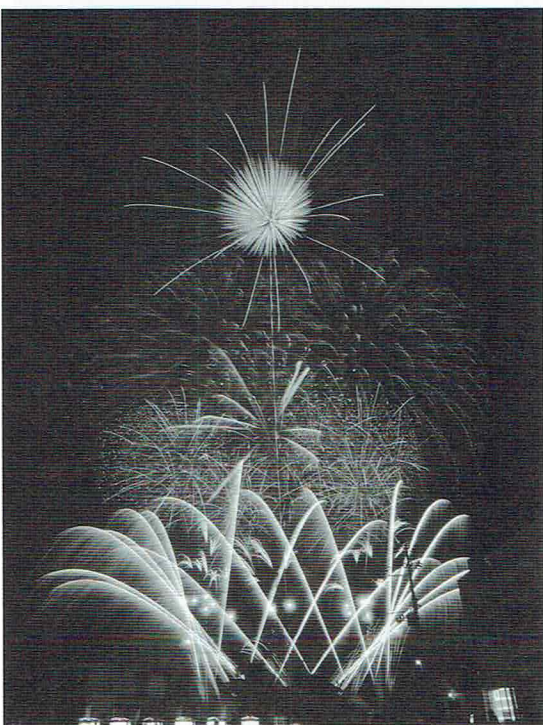
本来ならば大小の絵灯籠が賑

やかに各地域を練り歩きますが、新型コロナウイルスの感染を防ぐ対策の一環として今年も練り歩きは中止。おまつり広場に置かれて披露されました。

メイン会場となっている四ツ屋公民館は建物も古くなり、様々な催しに対応仕切れない狭さもあり、令和5年の秋まで建て替えられることになりました。従って今年は、これまでの公民館では最後のおまつりということになりました。

ステージ発表は公民館ホールで午後一時から、大曲中学校吹奏楽部と四ツ屋小学校器楽部の、軽快なコラボレーション演奏で始まりました。

総合司会は、今年もFMはな



花火のまちのお祭りらしく威勢の良い響屋のワイドスターマインが雰囲気盛り上げた

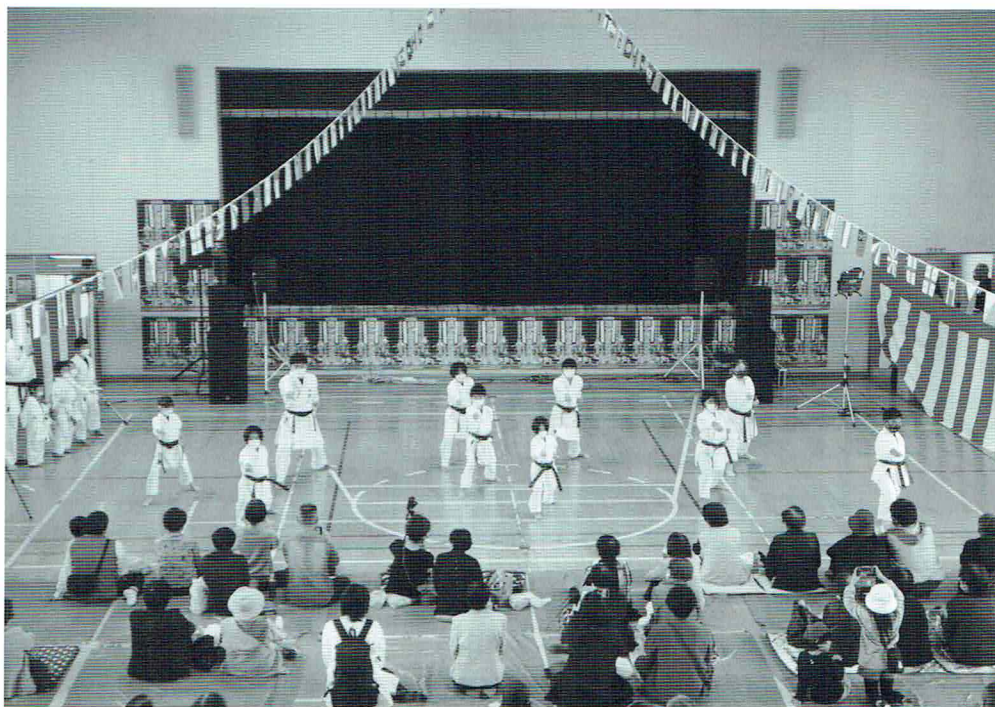


司会のFMはなび根田朋子アナウンサー

びのアナウンサーの協力を得て、根田朋子さんが務めて頂きました。小中学生の若さみなぎる演奏で観客の心も軽く、その後も、「懐かし」のエレキで若き日



大曲中学校吹奏楽部と四ツ屋小学校器楽部コラボレーションによる軽快な演奏と、観客の盛大な拍手で楽しいステージの幕が開いた



ステージは歌や踊りとともに、尚武館で鍛える若者たちによる、勇ましく力強い空手の型が披露された。

の思い出を！」のテーマのもと、「座★おとな番戸」によるエレキバンドや、かさはらもとじさん出演の「かさはらもとじ歌謡ショー」、森元椋太郎さんの踊り「富士」や「男 新門辰五郎」、お馴染みの玉扇会による華麗な日本舞踊など盛りだくさん。

中でも大曲農業高校郷土芸能部による手踊りは、若さはち切れんばかりの手踊りのパフォーマンスで、会場からは大きな拍手が沸き起こっていました。この公民館には、地域の多くの人々たちによる懐かしい思い出が、

盛り沢山に詰まっているのです。会場のホールでは、演芸の他にも、尚武館に通う若い人々たちによる、ホール前面いっぱい繰り広げた空手の型披露や、大曲高校書道部による書道のパフォーマンス「有難う！四ツ屋公民館」などで、役目を立派に果たして新しく建てなされる公民館に、感謝の気持ちを表してくれて感動的でした。なおスポーツ少年団の活動紹介では、活躍する野球と男子バスケットの各四ツ屋ブルーファイターズが紹介されました。

伝統の銘酒
はかり

刈穂

http://www.igeta.jp/
e-mail info@igeta.jp

大地の恵みとともに
秋田の心を醸す

雪蔵銘醸
てやわ

出羽鶴

秋田県大仙市戸地谷字天ヶ沢八三〇一
・お酒は二十歳になってから、お酒をおいしく適量で。
・妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

秋田県大仙市戸地谷字天ヶ沢八三〇一
秋田清酒株式会社

TEL 0187 (63) 1224
FAX 0187 (66) 2277

展示コーナーも充実

四ツ屋公民館 生涯学習の成果など

四ツ屋地域は公民館活動を通して生涯学習の盛んなところ
です。生涯学習時代は、誰でも、いつでも、どこでも、学びたいこ
とを学ぶ機会が与えられています。四ツ屋まつりは、生涯学習で
学んで身に着けた成果を、地域の人々に発表する機会を提供して
くれています。



四ツ屋まつりは公民館で生涯学習を学ぶ人々の成果発表の機会でもある。
書道や絵画、パッチワーク、手芸など、素晴らしい多くの作品が展示された

人生百年時代、特に最近のよ
うに世の中が激しい変化にさら
されているときだけに、「学ぶ
姿勢」は殊の外重要になりま
す。その意味からも四ツ屋地域
の人々は、生涯学習活動にも、
熱心に取り組む姿がうかがえま
す。それだけに、公民館が催す
生涯学習講座で熱心に学ぶ人も
多く、その人たちが日頃学んで
仕上げた作品の展示も、四ツ屋



おまつり広場には屋台村がつくられ、観客たちは軽く一杯飲みながら楽しく交流することが出来た。上は大繁盛で忙しい焼き鳥コーナー

まつりの呼び物の一つになって
います。
今年も展示コーナーでは、書
道や絵画、パッチワークや色々
多種類の手芸などが展示され
て、訪れる人々の目をうばって
いました。
とかく社会人として、あるいは
家庭に入ってしまったら、忙し
くその日その日を送ってしまう
勝ちになります。公民館などを

利用して生涯学習に参加するこ
とは、長い人生を充実させて、
生き生きと過ごす素敵な生き方
です。

おまつり広場は

地域住民・仲間交流の場

公民館前、普段は駐車場と
なっている広場はおまつり広場
として、食べ物、飲み物などの
店が並び、テーブルや椅子も配

置かれて、地域住民や若い仲間たちの楽しい交流の場となっていました。

秋空のもと、出店でちよつとおつまみと飲み物などを仕入れて近所の人たちや仲間たちと屈託のない話しが弾むのも、このような機会があればこそです。

新型コロナウイルスの完全防御のため、適当に感覚を保ちながらも花火観賞をする参加者たち。花火が上がる度に歓声と拍手があがる



夜も賑わった「おまつり広場」

家族連れ、仲間同士 交流の場

日が落ち、夜のとりとにも、おまつり広場に置かれた絵灯籠に灯が入り、側面に画かれた絵や文字がくつきりと浮き上がります。

大曲56年会の皆さんによる梵天唄が威勢よく唄われて広場の雰囲気は益々活気を帯びて浮き

立ちました。

やがて賑やかに、若者によるパフォーマン

スが始まりました。煌

姫神、桜秀心舞、わけ

もん、新屋なるこキッ

ズ、四ツ屋 HIPHOP

クラスの皆さんによる

「よさこい」や「ヒッ

プホップダンス」など、

若者らしく活き活きと

したダンスは、見る人

たちにも活力を与えて



大曲中学校昭和五十六年会の勢揃い

くれます。屈託ない若者たちのダンスを見てみると、「若いこ

とは何と素晴らしいことよ」という気分がふつふつと沸いてきました。

花火打ち上げで

クライマックス迎える

宵闇が迫り絵灯籠の灯かりがくつきり浮き上がると、いよいよ打ち上げ花火のはじまりです。広場では、かさはらもとじさんがナマで唄う「いざないの街」で、8月の「大曲の花火」本番の雰囲気が



「よさこい」「ヒップホップダンス」など、おまつり広場は若さが弾けた



溢れました。いよいよ響屋大曲煙火株式会社の花火「ワイドスターマイン」のはじまりです。

絵灯籠の並ぶ四ツ屋の夜空に打ちあがるスターマインは、この地で生まれ育ち、今があることの幸せを感動とともに強く感じさせてくれました。

乳頭温泉郷・夏瀬温泉

人里離れて 冬の魅力満喫

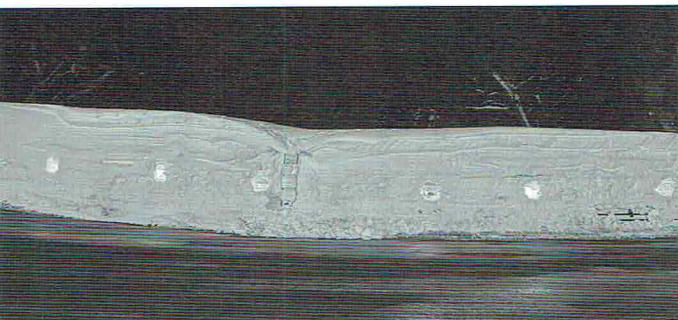
佐藤京子女将が語る

雪降る夜 湯の温もりに幸せ

きりたんぽ・山芋鍋の温かさ



奥羽山脈のふところ深く宵闇迫る雪の温泉宿の絶景。灯かりが眩しい



雪の回廊と化した乳頭温泉郷への道に“歓迎”の灯かりが揺れる

湯煙けむる冬の温泉場。考えただけでも寒さで身がすくめる人もいるでしょうが、冬こそ温泉の醍醐味を味わえるという人も多いのです。雪の温泉に浸かる幸せ感、冬の温泉場でしか味わえない真の魅力。「妙乃湯」の女将佐藤京子さんに、冬の温泉の魅力を語って頂きました。

雪はふもとの町より一・五倍位、2メートルから3メートル積もる乳頭温泉郷ですが、日本一の除雪上手と言われるだけに、お客様が雪で困ることはありません。

せん。雪の深いのが魅力と仰るお客様もいらっしゃいます。

道路は雪の壁が続く回廊と化しますが、回廊の壁を同間隔で繰り返し、そこにローソクを灯してお客様を幻想的なムードで歓迎します。金泉、銀泉二つの源泉を持つ妙乃湯は、音もなく雪の降る湯治場として、ご家族や一人旅のお客様に評判です。都会の雑踏の中で生活を強いられる現代人にとって、秘境で、透き通った空気を吸い、のんびりと温泉に入る贅沢な数日間、気持ちの中までもさっぱりと洗われると、お客様は話されます。

きりたんぽで秋田銘酒

妙乃湯が提供する冬の食事です。秋田の冬ですからね。それは身体が温まる食べものです。ね。それには、「きりたんぽ鍋」や「山芋鍋」は欠かせませんが出来ません。それに「しよつるかやき」です。本来は大きな貝殻を鍋にしたものですが、今は土鍋です。

ハタハタを主に、きのこなどを入れて煮た一人鍋ですが、これで熱燗の日本酒をグイッと飲れば、外の雪も忘れてしまうようです。秋田名物の「ハタハタずし」もお客様に好評です。

夏瀬温泉「都わすれ」は、抱き返り溪谷の岸辺に建つ瀟洒な温泉宿として知られています。奥羽山脈が迫る景観バツグンの温泉宿で、溪谷の流れと鳥の声だけがする静さが、訪れる人々

に好評で、一服の安堵感を与えます。四季を通じての安らぎの中でも、特に雪の季節の静けさは、訪れるお客様には、都会では味わうことの出来ない情緒がある

都わすれ お客様と一緒に作る

雪だるまやカマクラも



溪流の絶景“抱き返り”。岸辺に佇む夏瀬温泉「都わすれ」の前庭の秋は、紅葉の錦に彩られる

と喜ばれています。

雪が積もると中庭に出て宿のスタッフと一緒に雪だるまや「かまくら」づくりなどを楽しむお客様もおいでです。「かまくら」の中にはしつかり水神様をお祀りする本格派。宵闇迫るとローソクに灯を灯し、「かまくら」の中から見上げる星空の美しさ。今に残るふるさとの冬景色はこんなにも綺麗だったかと改めて感動します。

雪の季節を積極的に楽しみ、冷えた身体が温泉で温まる幸せを、文字通り、都会のわずらわしさを忘れて満喫するお客様も多く見かけられます。

「都わすれ」の冬の食事は、「妙乃湯」と同じ様に、秋田の味を出した鍋物など、冬の季節を楽しむ気持ちが溢れています。



「都わすれ」の中庭に作られた雪だるまとかまくら。お客様と従業員との合作だ

海外からの観光客誘致と、その地域の日本食のアピール目的にした「第31回・北前船寄港地フォーラム」が、10月にパリで開催されました。江戸・明治期に日本海などの海運を担った「北前船」です。この所縁の地や都市間交流、観光地域のインバウンド（海外からの訪日客）促進を目的に、海外開催は中国・大連市に続いて2回目です。

す。フランスは日本のアニメーションや日本の観光地など、日本文化に関心が高く、訪日客の拡大も期待されることから、今回のフォーラムの開催地に選ばれたものです。このフォーラムには秋田県からは、佐竹知事をはじめ秋田市の穂積市長など多くの関係者が参加しました。京子女将も、北前船フォーラムの一員として「都わすれ」のスタッフや、酒田市の舞子さんと共に参加したものです。

第31回 北前船寄港地フォーラム

食と観光PR 10月にパリで開催 京子女将など270名が渡仏



食と観光PRの第31回北前船寄港地フォーラムはパリで開催された。京子女将（前列右から二人目）酒田舞子さんを含む二七〇名の一行は大歓迎された

東京郊外 ぶら〜り 散歩

東京・小平市

ひらくしでんちゅう

平櫛田中

彫刻美術館



「気楽坊」

都心からも交通至便

玉川上水を臨む美しい庭園の眺め

素晴らしい秋日和に恵まれた11月のある日、青空に誘われるように、東京郊外の「小平市平櫛田中彫刻美術館」を訪ねました。武蔵野の面影を今に残す小平市は、空気が澄んで心地良く、木々の緑も深く静謐な雰囲気を感じました。大彫刻家で書道家、文化勲章受賞の平櫛田中に相応しい彫刻美術館で至福の時を過ごしました。(大釜)

平櫛田中は明治5年、現在の

岡山県井原市に生まれ、人形師中谷省古のもとで彫刻修行をし

ました。

その後上京し、高村光雲の門下生となりました。やがて日本



「鏡獅子」

美術界の指導者岡倉天心や禅僧の西山禾山の影響を受けて、仏教説話や中国の故事などを題材にした精神性の強い優れた作品を制作しています。

大正期には、モデルを使用した塑造の研究に励み、その成果を代表作「転生」「烏有先生」などにおいて示すとともに、昭和初期以降は彩色の使用を試み「伝統」と「近代」の間に、表現の可能性を求めました。

昭和33年、22年の歳月をかけて完成した東京・千代田区の国立劇場正面ロビーの「鏡獅子」に、田中芸術の集大成を見るこ

とが出来ます。

そして昭和37年、彫刻界でのこうした功績が認められ、栄えある文化勲章を受賞しています。田中九十一歳の秋でした。昭和45年、長年住み暮らした東京都台東区から東京郊外の小平市に転居し、百七歳の天寿を全うするまでの10年間、小平の地に住み、その邸宅を広く公開するため、昭和59年、「小平市平櫛田中館」として会館したものです。その後

は平成6年に展示館を新築し、2館併設の美術館として現在に至ります。平成17年、遺族から小平市に作品の寄贈を機会に平成18年4月、現在の「小平市平櫛田中彫刻美術館」と改称されました。(この項、「小平市平櫛田中彫刻美術館案内を参考しました」)

生誕百五十年

「平櫛田中特別展」を鑑賞

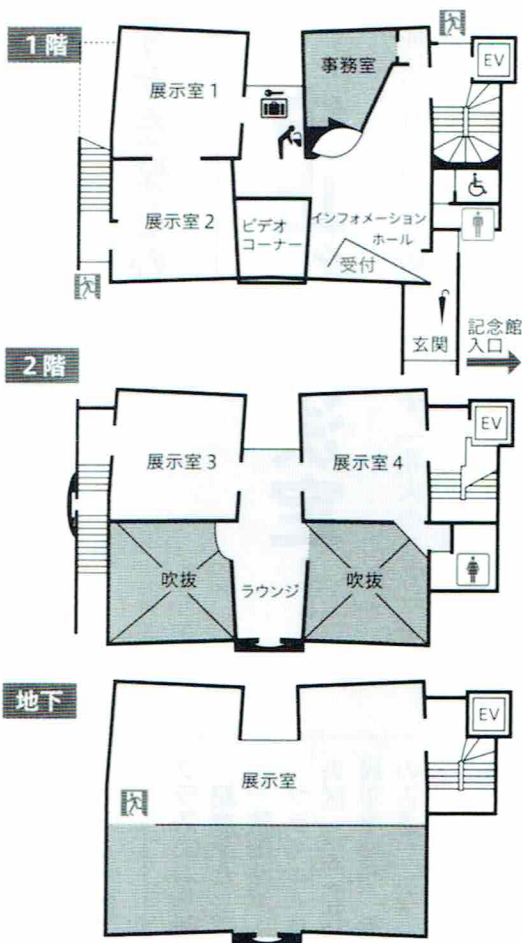
令和四年は田中の生誕は百五十年に当たります。それを記念して「小平市平櫛田中彫刻美術館」では、9月17日から11月27日までの期間、「特別展 生誕一五〇年 平櫛田中展」を開催していました。明治5年、現在の岡山県井原市で生を受けた、大正、昭和と東京で活躍した田中それぞれの時代の代表的作品を、この度の訪問で直接鑑賞する機会に恵まれました。

平櫛田中は、彫刻家として文化勲章を受賞するなどあまりにも有名ですが、晩年は書道家としても良く知られています。「六十、七十は鼻たれこぞう男盛りは百から百からわしもこれからこれから」「今やらねば いつできるわしがやらねば たれがやる」人生を力強く生き抜くための



書《いまやらねば》

展示館 Exhibition Hall



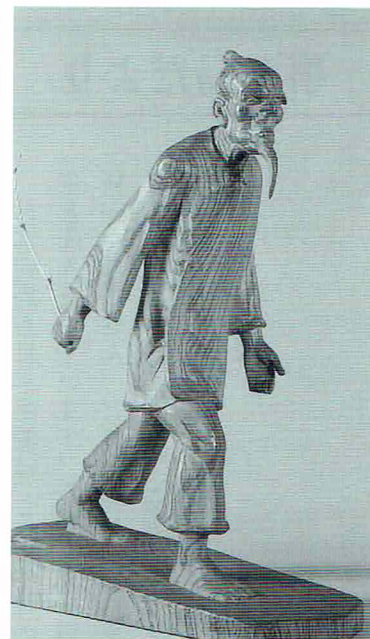
1階展示室



2階展示室



地下展示室



「尋牛」



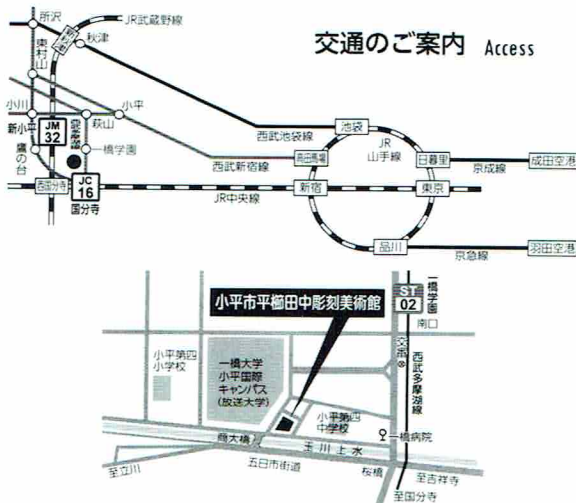
「唱歌君ケ代」

座右の銘としても、私たちの生きる教訓となっています。
田中は百歳を越しても制作意

欲は衰えることは無く、彫刻用原木は百三十歳過ぎまでの量を保有したという話は良く知られています。その原木は今も前庭にしっかりと保存されていて、見学者の感動を呼んでいます。

緑豊かな一橋大学のキャンパスも近く
小平市は広大な緑豊かなキャンパスの一橋大学や津田塾大学小平キャンパスがある学園都市です。雑踏の都心から近いとは思えない、東京のオアシスとしても知られています。会員のみなさんも、ちよつと足を伸ばしてみませんか。郊外の空気を吸いに出かけてみませんか。

交通のご案内 Access



小平市平櫛田中彫刻美術館へのアクセス
○西武多摩湖線「一橋学園駅」南口徒歩10分
○JR武蔵野線「小平駅」タクシー5分
○JR・西武線「国分寺駅」タクシー5分
○国分寺駅北入口から西武バス「小平駅西口」行きで「一橋病院」下車徒歩7分 *当館には駐車場はありません。詳細はお電話でお問合せをお願いします。

「大曲の花火」を観て、

みんなでカラオケを楽しむ会

今年度も「中止」を決定！

私たちのふるさと大曲は、日本中にその名を轟かす「花火のまち」です。そこで、ふるさとの伝統と興奮を東京でも味わおうと首都圏大曲会の企画で、毎年2月に開催されていた「東京で『大曲の花火』を観る会」。集まったからには、みんなでカラオケを楽しむ人気のイベントでしたが、世界中に猛威を振るう新型コロナウイルスのため、今回も「中止」を決定しました。

ご承知のように新型コロナウイルスの陽性者数は、一進一退を繰り返していますが、感染力が強いといわれるオミクロン株が主体とする第八波が想定されるに及び、幹事会の総意による残念な「中止」の決定です。

発生当初の緊張感を維持して

二年連続で中止されていたことから、今年こそはその決意で幹事のみならずも張り切っていたことでした。そのような折でも悪質きわまるウイルスによる感染症には、無理して強行することは許されません。会員の皆さまには事情ご賢察のうえご理解くださいますようお願い致します。

日本列島も日本海側は、この冬殊の外雪が多く、例年に増して寒い冬の到来と聞き及んでいます。新型コロナウイルス禍とともにインフルエンザの流行にも油断がなりません。どうぞ会員の皆さまには、人混みを避け、気を緩めることなく、基本的な感染予防を順守してこの難局を乗り切ってください。巷間色々な意見が取り沙汰されていますが、今一度発生当初の緊張感を維持し頑張り抜きましょう。

事務局だより

首都圏大曲会

首都圏大曲会

トピックス



プラスエム(株)創立二十周年

記念品として、特別装丁の

秋田銘酒「秀よし」を選定

プラスエム株式会社(東京都中央区長岡稔社長)は、創立二十周年を期し、それにたまたま社長が、大仙市長野の蔵元・鈴木酒造店の「純米吟醸酒 松声」を選定しました。

プラスエムは、「産業界と学校教育現場を結びつける」を目的に創業された、これからの教育には必須の体験と知識を醸し出すジョイント役を務める新しい時代の企業です。それだけに長岡社長は、教育界から産業界まで幅広い人脈を持ち、人との接触の機会があり、その意味では飲食等を共にする機会も多いことでしょう。長岡社長の出身地は群馬県ですが、首都圏大曲会の大釜会長から秋田銘酒「秀よし」の話を聞き、一緒に飲んでいるうちに記念品は、銘酒「秀よし」に決定したものです。

古希を迎えた長岡社長は、自分が生きてきた道を振り返るとともに、周りの人たちに感謝の意を伝える「朝焼けのころへ拾い集めた一一一の記憶」を刊行しました。この酒のラベルも、朝焼けをベ

スに、自分自身が仕込みの大樽を掻き回すポーズの写真をあしらった「朝焼けのころ」(古希を迎えて)と添え書きした特注のラベルです。ラベルの写真は本人が「秀よし」の蔵元まで出向き、プラスエムの工藤さんの撮影です。この新構想のラベルは、東京で勉強した鈴木社長のお嬢さんが装丁しました。首都圏大曲会の「ふるさと貢献」の信条がこのような形式で活かされることは意義があり嬉しいことです。

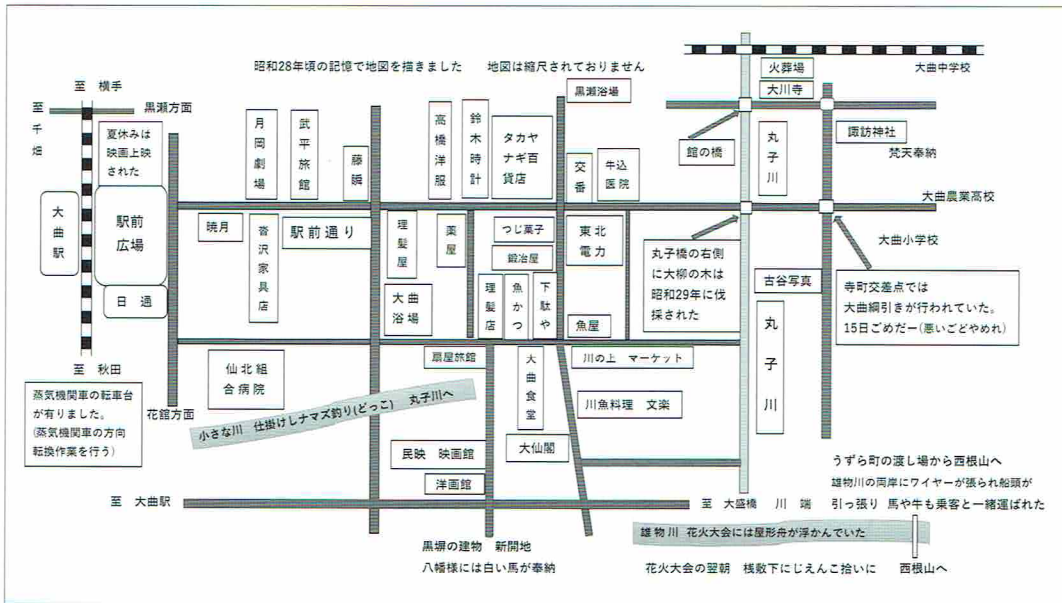
ゆうちよ銀行の振替口座番号申請について

首都圏大曲会では、会名義のゆうちよ銀行口座に直接振り込まれる会員のために、振替番号を申請中です。貯金口座があっても専用の振替口座番号が無ければ振込み手数料が高くなることから、必要書類を整え申請しております。令和4年4月以来二回に渡って申請しましたが、審査条件が厳しく未だ受付られておりません。会員の皆さまにはご希望に添えずご迷惑をおかけしております。

貯金口座から首都圏大曲会の貯金口座に直接振り込む場合は振込み手数料は低額です。ゆうちよ銀行に口座をお持ちでなく、市中銀行をお持ちの方は、3ページに掲載のように、市中銀行の口座から首都圏大曲会のりそな銀行の口座に振り込まれても結構です。引き続きゆうちよ銀行の振替口座取得には努力いたします。

思い出の中の大曲

◆資料提供

鈴木 繁さん
(首都圏大曲会副会長)機関車の吐き出す黒い煙
と蒸気の匂いが漂う(昭和28年当時)
腕白時代
駅界隈が私の遊び場だった

大曲駅界隈は、上の地図を懐かしく思い出して画いてくださった鈴木繁さん(首都圏大曲会副会長)、腕白当時の遊び場でした。今は「花火通り」と呼んでいます。当時も駅から大曲まで、街を真っ直ぐ貫く大通りは、大曲のメインストリートであることには変わりません。

「こまち」が走る今でこそ電気機関車ですが、昭和28年当時は蒸気機関車全盛時代で、奥羽本線も生保内線(現田沢湖線)も、真っ黒な煙と白い蒸気を吐きながら走っていました。駅前広場は、石炭の匂いと蒸気の匂いが混じった駅前独特の空気が漂っていました。今でも「こまち」から下りて駅前に出ると、懐かしい当時の匂いが漂っているような気がして、生まれ育った町に帰って来たなあと、安らぎの気分になさしてくれます。

以下は鈴木繁さん自身の腕白時代、思い出の中の大曲駅界隈

お詫び 「ふるさと大曲」32号の「卒寿紀行」わが若き日の思い出は、大変懐かしいと好評でした。筆者の小松國男さんから次のご連絡を頂きました。「卒寿紀行」は「卒寿紀行」、15頁の「怖かった空襲の経験」の三行目、「特に昭和十九年七月十五日は凄かった」は、昭和二十年の間違いです。いずれも編集担当者の勘違いでした。謹んでお詫びし訂正いたします。

懐かしい「大曲の写真」を探しています。

会員や「ふるさと大曲」の読者の中で、懐かしい当時の写真をお持ちの方は、ぜひ編集部までご連絡ください。

連絡先 〒161-0054 東京都新宿区河田町6-6
首都圏大曲会 メール: info@e-prosjp.com

限りと、エピソードです。

お菓子店の『暁月』には私の同級生がいました。今は秋田市大曲町に在住。書店の『藤瞬』は毎年新学期に、教科書などを購入していました。(私には、姉たちが使った教科書のお下がりが、解答付で便利でした)

西土屋館町の阿部鍛冶屋さん、私の実家の裏側にありました。

腕白盛りの頃、阿部鍛冶屋さんには色々お世話になりました。思い出すと悪い悪戯ばかり。汽車が通り抜けた後、線路でつぶした釘を鍛冶屋のグラインダーを無断で借りて、携帯用

の小刀を作ったり、夏にはカーバイトをちよつと借りて?、夜の雄物川に投げ込んで魚を捕るなど、近所のガキ大将に引き連れられて、そんな夜遊びをしたことも、今では懐かしく思い出されます。

通りを少し入ったところに「大曲浴場」がありました。ここでは常時開いている女湯の高窓から水鉄砲で冷たい水を発射。「キャー、ドコのカギだー」怒鳴り声を聴いて喜んでいた悪ガキ共。小学校から帰ると、大曲民衆映画館(民映)の従業員が兄の友人でしたので、従業員入り口から入り映画をタダ見した思い出。夏休みには夜になると、駅前広場で、文部省推薦映画の映写会もありました。

(地図は記憶違いもありますので、違っている場合は気の付いた方の記憶でご訂正願います。文責・大金)

仲間の広場

レボルス・ニゲル

(クリスマスローズ)

黒皮 羽生

旅立ちの朝 あなたに贈る
押し花にした一輪の花

ヘレボルス・ニゲル

平和の国に咲くヘレボルス

魔法の花に話しかけて

口づけて

クリスマスローズの花言葉

(私はいつも

あなたの側にいるわ)

雪の降る街で 命は芽吹き

幸せ色の 蕾は開く

ヘレボルス・ニゲル

幸せ願ひ咲くヘレボルス

魔法の花を思い出して

微笑んで

クリスマスローズの花言葉

(私はいつも

あなたの側にいるわ)

魔法の花よなみだを拭いて

泣かないで

クリスマスローズの花言葉

(私はいつも

あなたの側にいるわ)

黒皮羽生は首都圏大曲会の幹事佐藤重光氏のペンネーム。黒皮氏の作詞した「ヘレボルス・ニゲル」は、糸井恵一氏の作曲、目黒京子さんの唄で、ユーチューブでも歌われています。

ふるさとからの便り

(ドンパン節の替え歌)

田口 恵子

(前歌)

変わらないかと声をかけ
握った手と手が温かい
氷柱も溶けて春が来る
結んだ心に春が来る

一、お日様笑えば夏が来る

ふるさと平野に夏が来る

暑さに負けねで育つ稲

おらだも負けねで働くぞ

二、今年も豊作 祝い唄

唄ってたいた拍手子に

アキタコマチが

おじぎする

刈入れ近いとおじぎする

三、刈入れ終われば 村祭り

太鼓の響きに 誘われて

北風小僧が 笛を吹く

出番が来たぞと笛を拭く

四、北風小僧が 笛吹けば

仙北平野に 雪が来る

足腰いたわり達者でな

春を待てよと雪が降る

五、親の背中が 道しるべ

出会いと別れを

繰り返し

重ねた苦労に花が咲く

希望の夜明けが

また来るぞ

六、西に傾く お日様が

今日の別れを

惜しんでる

また会う約束 来年も

忘れちゃならない

ふるさとを

(それ)

ドンドンパンパン

ドンパンパン

ドンドンパンパン

ドンパンパン

ドドババ

ドンパンパン

お馴染のドンパン節。円満造

甚句として大仙市豊川地区を中

心に長い間歌い継がれてきた。

これまでもドンパン節の替え歌

は色々あるが、今年、鑑見内小

学校の同級会で田口恵子さんか

ら、大仙市を離れて暮らしてい

る人に、「ふるさとからの便り」

として贈られた替え歌である。

ふるさとの情景がありありと目

に浮かび懐かしい。ふるさとの

有難さ、温かさを大事にしたい。

(大釜)

編集後記

▼自治体における情報の共有、デジタル化は政府の積極的な掛け声で、最近その普及の度を加速しています。大仙市も将来のあるべき姿を模索し、昨年四月、DX推進課を新設。老松市長自ら先頭に立ち構想実現に取り組んでいます。将来の様々な課題解決のために、デジタルの活用は市役所のみならず、市民一人ひとりの課題として取り組まなくてはなりません。12月8日、市役所の職員や市議会議員を対象に開催された特別講演会は、大仙市のDXに対して真剣に取組む姿勢を如実に示しました。市役所の皆さんも頑張っています。これによる行政サービスを受ける市民一人ひとりの行動も、DX推進成功の大きな課題。「大仙市役所訪問」は、タイミング良く総務部DX推進課を訪ねました。▼交通機関や情報機関が発達した今でも、ふるさとの空気を吸い、ふるさとの人々の温かい人柄に接すると、身も心も洗われます。11月に帰省しました。青空を背景に、赤く色づいた柿の実や、子どもの頃よく通った紅葉した小道に、少年時代の自分が重なって、ふるさとを持つ幸せをしみじみ感じました。ふるさととのみんなも待っていてくれます。幹事座談会は、子供の頃に歌った懐かしい歌と、それにまつわるエピソードを語り合いました。▼秘湯として最近よくメディアで話題になる乳頭温泉郷や、夏瀬温泉の「都わすれ」の冬の魅力を、「妙乃湯」の佐藤京子女将さんに紹介して頂きました。(大釜)

パンフレット・ポスター・
冊子印刷&製本など

印刷のことなら 何でも ご相談下さい。

原材料の仕入・固定コスト等、
秋田の立地を最大限に生かし
低価格・高品質の商品を
お客様にご提供すべく、
日々精進を致しております。

首都圏のお客様にも秋田協同印刷のモットーとする
『すべてはお客様のために』を『すべてのお客様のために』!
是非お感じ下さい!

ご連絡を頂ければ飛んで参りますので、
お気軽にお問合せを宜しくお願い申し上げます。

秋田協同印刷株式会社 首都圏担当

〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋1丁目39-7
ライオンズステーションプラザ三軒茶屋604

TEL.050-5820-4764
FAX.03-6320-8339

憩い

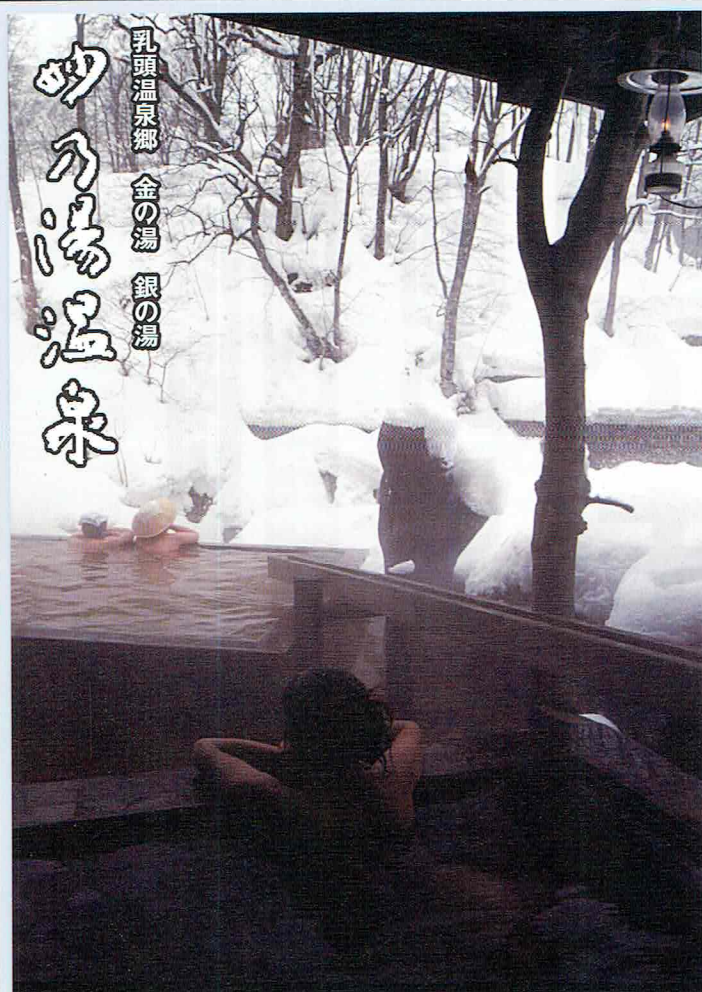
安らぎ

癒しの宿

秋田・十和田湖・八幡平国立公園

ここ乳頭温泉郷は、七湯の、素晴らしい良質の宿が点在しています。中でも妙乃湯は、関西から見た東の「金泉・銀泉」の二源泉を併せ持った誇れる宿です。また、こじんまりした秘湯の素朴さ、古きに新しさのバランスを兼ね備えた趣のあるいで湯で、非日常のときをゆっくりお楽しみください。

〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-1
電話0187-46-2740



乳頭温泉郷 金の湯 銀の湯
妙乃湯温泉



秋田温泉
都わすれ

秋田・田沢湖・抱返り溪谷 県立自然公園

田沢湖と角館の中ほど。音もなく雪降り積もった冬の朝。広い敷地と周囲の山々に包まれた「都わすれ」は、客室わずか10室。

全室抱返り溪谷を見渡しながらのかけ流し露天風呂付き。人里離れた理想郷で、静かに流れる至福のときをどうぞ。

〒014-1113 秋田県仙北市田沢湖卒田字夏瀬84
電話0187-44-2220